

図書館だより

発行：千葉市図書館 <http://www.library.city.chiba.jp>

- 千葉市中央図書館
千葉市中央区弁天3-7-7 043-287-3980
- | | |
|----------------------|-----------------------|
| みやこ図書館
(233-8333) | 白旗分館
(264-8566) |
| 花見川図書館
(250-2851) | 花見川団地分館
(250-5111) |
| 稲毛図書館
(254-1845) | 西都賀分館
(254-8681) |
| 若葉図書館
(237-9361) | あずみが丘分館
(295-0200) |
| 緑図書館
(293-5080) | 土気図書室
(294-1666) |
| 美浜図書館
(277-3003) | 打瀬分館
(272-4646) |
| 移動図書館
(287-3983) | |

【特集】・読書の秋に—おすすめの本(地区図書館 & 分館のページ)【3面】
・こんな本 あんな本あります～児童書展示コーナー～【2面】

地域文庫等研修会 中村柊子氏講演会 『子どもと絵本を結ぶもの』



中村柊子氏をお招きして

平成17年7月6日(水)生涯学習センター・ホールにて、子どもの読書を推進するために活動している団体や個人の方を対象に地域文庫等研修会を実施しました。

午前の部は、36年間の保育士を経て、現在青山学院女子短期大学児童教育課程の非常勤講師をされている中村柊子さんの講演会を行いました。中村先生は、子どもの成長過程において、絵本がどれだけ深く関わっているかを実例を交えてとても分かりやすくお

話してくださいました。『だんごむし』でみた脱皮の写真から園庭に出て抜け殻を探したり、せみの命の短さを本で知り、捕まえたせみを、最後に虫かごをあけて放して「またなあ」と呼びかけるなど、絵本が刺激になって成長していく子どもたちが実感できました。

本を選ぶ点では、無理して年齢より難しい本を選ぶのではなく、年齢にあわせた本を選ぶことが大切だということ。季節感やその時の子どもの興味も大切にしたいとおっしゃいました。中でも昔話は、読んでもらった後でおもしろかった!と子どもたちが思える本がよいのではないかとのことです。悲しいお話よりもおもしろくて、シンプルで、おおらかな、骨太の話を選ぶ事を薦めて下さいました。知恵を働かせ成長していく主人公に身を重ねていくことで現実での自分も成長していくことにつながるのでしょう。先生が、本選びで迷った時には、図書館職員に聞くとよいといわれた時には、責任を感じて身の引き決まる思いがしました。子どもたちの絵本の見方の特徴の一つに、繰り返し何度も読みた

ることがあります。同じ本を読んでいるようでも、言葉の体験を重ねたり、主人公の動きを膨ませたりして、その本を十分味わっているのです。それは、子どもにとっては必要な事なのです。大人にはくどいと思うほどの繰り返しに、負けずに付き合っただけが大事です。また、わからせることより感じることを大事にしたいので、命の大切さや異文化理解を押し付けがましくなく、本を読む事で感じて欲しいとおっしゃいました。

読み方では、突然読んで持つてきた時以外は、前もって必ず音読しておくこと。自分のはなし言葉よりちよつとゆっくり目に語ること。自然に、余り張り切らずに読むことがよいそうです。また、今を生きている子どもたちにとって、物がどのように作られているかそのプロセスを見せてあげることが大人の責任ではないかと強調されました。身体を使って遊ばなくなった子ども達に、体験の幅をひろげる為に、昔の暮らし(生きる知恵・生活習慣・道具等)を遠慮なく伝えてほしい。そこで、人の暮らしは何によって成り立っているかを知ることができる本『にぐるまひいて』『ペレのあたらしいふく』の2冊を紹介されました。

子どもにとって、絵本を読んでもらうという言葉の体験は、生きる力を養うことにつながるのだと実感するお話でした。また、先生の言葉の中で一番印象に残ったのは、『読むことのでつながら大人との一体感が、人間関係の絆を深めている』というものでした。親子関係や友人関係が生きる上で心の基盤になるからこそ、子どもたちに培って欲しい感性だと思えます。

子どもと本の関係を温かく見守っている先生のお話はとても好評で、参加者のアンケートの中で再演を希望される方が多く見受けられたのもうなずけます。

大人にとっても「感覚を若くするためには子どもと共に絵本を読むことに限る」という先生の言葉のとおり、今後、幅広いジャンルの子ども本を知ることが、児童サービスの点でも、私たち自身にも、一層励みになることと思えます。



お話の中で紹介された本

中央図書館のページ



こんな本あんな本あります 【児童書展示コーナー】

児童コーナー中央、利用者用検索機の奥に、児童書展示コーナーがあります。普段は見過ごされがちな図書を紹介することも、展示コーナーの目的のひとつです。他の本と一緒に書棚に並んでいるだけでは目立たない本も、表紙はカラフルな絵や写真が載っているものがたくさんあります。このような本は表紙が見えるように置くと、大勢の方の目にとまるようになります。利用が増えます。

これまでに「世界の文字」と題して、各国言語の一覧表を掲示して外国語に関する本を展示したり、「いろいろな国の学校」では初めて学校に行く子の緊張感を表した本や世界の学校・面白い学校紹介の本を並べたり、「昔の遊び」ではベーゴマやめんこ、おはじきやお手玉、草花遊びやカンけりなどの遊び



児童書展示コーナー

方の本の紹介をしました。現在は「科学の世界」というテーマで、展示しています。足元から宇宙まで、さまざまなおもしろい科学など、近所に落ちているどんぐりの種類の見分け方がわかる『どん

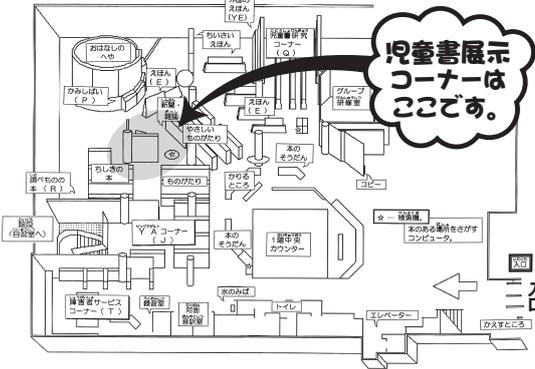
ぐりノート』(文化出版局)には、どんぐりの食べ方で載っています。

また、草むらに隠れているいろいろな虫の鳴き声を楽譜と楽しいレタリングで表現した『なく虫ずかん』(福音館書店)や、空に目を向けると風や雲や月の様子から明日の天気を知るヒントがかくれている『あしたのてんきははれ? くもり? あめ?』(福音館書店)など、身近なところにひそんでいる科学を感じることが出来る本を紹介しています。

本の周りには、本物のどんぐりや木の実なども飾ってありますので、あわせてご覧下さい。他にも、家にあるものでできる実験やゲームなどを紹介した本などがあります。細長い紙を1回ひねってつなげた輪の真ん中をはさみで切っていくと、ねじれた大きな輪になる『メビウスの輪はご存知の方も多いいと思います。では細長い紙を2回ひねってつなげた輪を切るとどうなるでしょう? また、3回ひねったらどうなるでしょう? 答えは『まほうのわ』(大日本図書)に載っています。

ぜひご覧になつて自宅でお試しください。

なお、展示には館内資料と貸出資料があります。貸出資料が見当たらない場合は、児童カウンターのおたずね下さい。



児童コーナー案内図

利用者サービスあれこれ

○ご存知ですか? こんなサービス
「自動出納書庫について」

中央図書館の「自動出納書庫」は、コンピュータ制御により、大量の図書を閉架書庫からスピーディに効率よく利用者へ提供できるシステムです。



お目当ての資料を館内の検索機で調べて、「自動出納書庫」と表示されたものは、地下の自動出納書庫に収納されています。画面に表示された書名と、タイトルコードと呼ばれる10ケタの数字、そして氏名を「自動出納書庫・閉架書庫資料申込書」に記入してカウンターでお申し込みください。市内図書館、図書室等34ヶ所をオンラインで直結しているので、混雑程度により、約5～20分程度の待ち時間がかかります。どうぞご協力をお願いします。

企画展示のご案内

1階展示コーナーでは10月19日(水)まで、「本に描かれた動物たち:象」をテーマに展示を行っています。千葉市動物公園の風太くんに関する資料等もあわせて紹介しています。文庫コーナー側は、「災害に備えよう」と題した、防災に関する資料展示です。

また10月21日(金)からは、「こどものとも」復刻版を展示する予定です。ぜひ一度ご覧ください。



1階展示コーナー



1階文庫コーナー

地区図書館&分館のページ【特集】読書の秋に—おすすめの本

みやこ図書館

☆『千葉氏探訪』(鈴木佐 編 千葉日報社)

☆『上総下総千葉一族』(丸井敬司 著 新人物往来社)

☆『千葉氏の研究』(野口実 編 名著出版)

みやこ図書館は、市の図書館の中で千葉氏の拠点・千葉城址に最も近距離に位置しています。そのためか「千葉氏について」の資料を尋ねられることがあります。そこで、千葉氏に詳しい郷土博物館の方に、基本的な資料として、右の3冊を紹介してもらいました。これらの本は、みやこ図書館で借りることができます。

来年は、千葉氏が猪鼻山に居館を築いてから880年目となります。みやこ図書館では、千葉氏に関する歴史講座を開催します。ぜひご参加ください。歴史講座に関する詳しいお問合せはみやこ図書館まで。



若葉図書館

児童室から本を紹介いたします。

☆『おしゃべりなカーテン』(安房直子 著 講談社)

はる子のおばあさんがカーテン屋さんを始めました。夏になり、初めてのお客さんが来ました。注文は「海の色のカーテン」。さて、おばあさんはどんなカーテンを作っているのか困ってしまいました。すると、白いカーテンがしゃらんとゆれ、おばあさんに話しかけます。夢あふれるファンタジーです。

☆『科学のアルバム 新装版全73巻』(あかね書房)

このシリーズの刊行開始は1970年です。以来斬新な科学読み物として子どもたちに大変親しまれてきました。

まもなく紅葉の季節、「紅葉のふしぎ」を開いてみてはいかがでしょう。葉が赤くなるのはなぜ?そんな疑問に答えてくれます。



花見川図書館

普通の書店にはない資料が多い地域行政(郷土コーナー)からの紹介です。

☆『千葉市のむかしと今』(菊地利夫 著)

子どもたちがグループで、千葉市の歴史や、交通・産業の移り変わり、くらしの課題を調べる。また、最近の総合学習のようですが、実は、50年以上前(昭和25年)の本。統計・グラフ・地図等を活用し、会話体でわかりやすく、昔の千葉市と当時の千葉市の姿が浮かび上がってきます。

当館では、11月26日に郷土史講座「蘭学の成長・発展と佐倉順天堂」を開きますが、佐倉堀田藩との関係も「第5章江戸時代の千葉町とちかくの村々」で触れられています。(貴重書につき、館内でお読みください。)郷土史講座のお問合せは花見川図書館へ。



緑図書館・あすみが丘分館

「女心と秋の空」と言われ、秋の空は変わりやすく女性の移り気表現した言葉として使われていますが、秋の空を感じていますか?

青い空に白い雲を見付け、その形から動物や植物など様々な物を想像することは楽しいのですが、雲にも「名前」があるのです。

罌雲(いわしぐも)や羊雲(ひつじぐも)などの有名な雲のほかにも、たくさんのお名前を紹介しているのがこの本です。

☆『雲の名前の手帖』(高橋健司 著 ブティック社)

この本は雲を10の種類に分け、それぞれの形状や特徴を写真と共に紹介しています。

また、「雲の見分け方・雲ができるわけ・天気図で空をよむ・雲の流れ」の解説も載っているので読書の秋のお供にいかがでしょうか。



稲毛図書館

秋と言えば読書の秋、食欲の秋……。秋になると甘くておいしくなる食べ物の本を紹介します。

☆『おおきなのおおきなおいも』(赤羽末吉 作・絵)

あおぞら幼稚園で子どもたちが楽しみにしていた、いもほり遠足が雨で1週間後になりました。先生は子どもたちに「おいもは7つねると、大きくなって待っていてくれる」と話します。

子どもたちは、大きな紙をたくさんつなげて、大きな大きなおいもを描いたり、力を合わせて掘り出したり、ヘリコプターで運んだり、プールに浮かべて船にしたり…。

子どもたちの空想は、どんどん広がっていく、スケールの大きいおはなしです。子どもが描いたような絵は親しみやすく迫力があります。幼児におすすめの本です。



美浜図書館

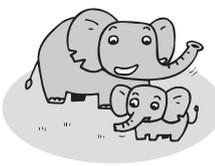
☆『ゾウの時間ネズミの時間・サイズの生物学』(本川達雄 著 中央公論社)

著者は、ネズミと象、猫、犬、馬など動物のサイズと時間の関係を比較しています。ネズミは行動がすばやく寿命は数年と短いのに対し、象は行動がゆったりして長生き(ネズミの百倍生きる)といわれ、知能が発達しています。

けれど、哺乳類はすべて、1回呼吸する間に心臓は4回打ち、一生に心臓は約20億回打つので、心臓の拍動を時計とすると、象もネズミも全く同じ長さだけ生きて死ぬことになるそうです。

また、大きい動物は新しい品種をつくるのが困難で絶滅しやすく、小さい動物は体の割に沢山の食物が必要である等、どれも興味深い内容です。

さらに、「絵ときゾウの時間とネズミの時間」(福音館書店)を読むと、より理解が深まると思います。



レファレンス事例 ⑥

近頃地震が多いようですが、過去最大の地震は何ですか?やっぱり関東大震災なのではないですか?

日本が世界で一番地震の多い国であることをご存知ですか?実は世界の地震の約10%が日本で起きています。ご質問の件については、『理科年表第78冊(平成17年)国立天文台編 丸善刊』を提供しました。この資料には、「日本付近のおもな被害地震年代表」と「世界のおもな大地震・被害地震年代表」が掲載されています。日本の年表には西暦416年から2003年までの地震が載っています。それによると1900年以降日本の被害地震件数124件です。関東大震災は、M7.9、死亡者・不明者数は14万2千余りで、被害等級によると過去百年で最大ですが、マグニチュードだけを見ると、平成6年北海道東方沖地震がM8.2を記録しています。

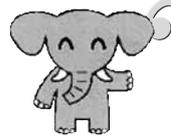
文明が進歩したとは言え、私たちの生活は気象や天候に左右され、自然とは切っても切れない関係です。『理科年表』には、地球に関する様々なことが分野別に網羅されています。気象では気温や降水量・積雪などの平均値が、また、当年の潮汐表や日の出・日の入り時刻も載っており、身近な自然を知る良い資料です。一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。



ダンボの耳 《図書館Q&A》

「自習室と研究個室①自習について」

中央図書館内に、「自習室」と「研究個室」があるのをご存知ですか?どちらの利用も市民の方(在勤・在学者を含む)が対象です。今回は、自習室についてお知らせします。



自習室は中央図書館地下1階にある、持ち込み資料による自習のための部屋です。中学生以上の方が利用できます。隣同士の座席が近いので、パソコンや音の出る機器の利用や、飲食喫煙、携帯電話の使用はご遠慮いただいています。

利用は、午前・午後・夜間(平日のみ)の入れ替え制です。当日来館のうえ申し込みいただいた方のみ座席指定となりますので、座席の事前予約や、個人の希望による座席指定はできません。

自習室は、1階YAカウンター、または児童貸出カウンターで申し込みを受け付けます。詳しくは職員にお尋ねください。次回は、研究個室についてです。

移動図書館車「いずみ号」⑥

犢橋と長沼原のステーションを紹介します。犢橋ステーションは犢橋公民館の敷地内で第2・第4木曜日の午後1時40分から2時10分まで。長沼原ステーションは長沼原公園内で同じく第2・第4木曜日の午後2時30分から3時10分まで。どうぞご利用ください。



おすすめの本(話題の本)

『ダ・ヴィンチコード(上・下)』ダン・ブラウン著(角川書店)

書かれている内容について、世界中で賛否両論の論争が起きているベストセラー。2006年に映画化(監督ロン・ハワード)も決定しました。昨年5月出版ですが、千葉市図書館では今年の9月現在で500件以上のリクエストがあります。

主人公ラングドンが捜査協力を求められたルーヴル美術館で起きた殺人事件。残された数々の暗号とその解読。キリスト教や秘密結社が様々に関わりながら、殺人事件の犯人と疑われたラングドンはどんどん追い詰められていきます。

『ダ・ヴィンチコード』のシリーズとしては、前作「天使と悪魔(上・下)」に続く2冊目。秋の夜長の読書にお薦めですが、ページをめくる手が止められないので、読み始めるなら休日前に徹夜を覚悟してからの方が良いかもしれません。



Central Library Calendar for 2005 (October, November, December) with days of the week and library hours.

Regional Library Calendar for 2005 (October, November, December) with days of the week and library hours.

※開館時間等
・火～金 9:30～21:00
・土日祝 9:30～17:30
・祝日開館(中央図書館のみ)

※開館時間等
9:00～17:00
・分館は、木曜日13:00～
・土気図書館は火・水・土の13:00～17:00